

STEP 4 生活支障を軽減するためのプランを作成する

「高齢者施設における認知症高齢者の生活支障尺度を利用したケアプラン作成 & 実践ガイド」のP6からの例を参考にケアプランを考えてみましょう。

高齢者施設における認知症高齢者の生活支障尺度を利用したケアプラン作成 & 実践ノート

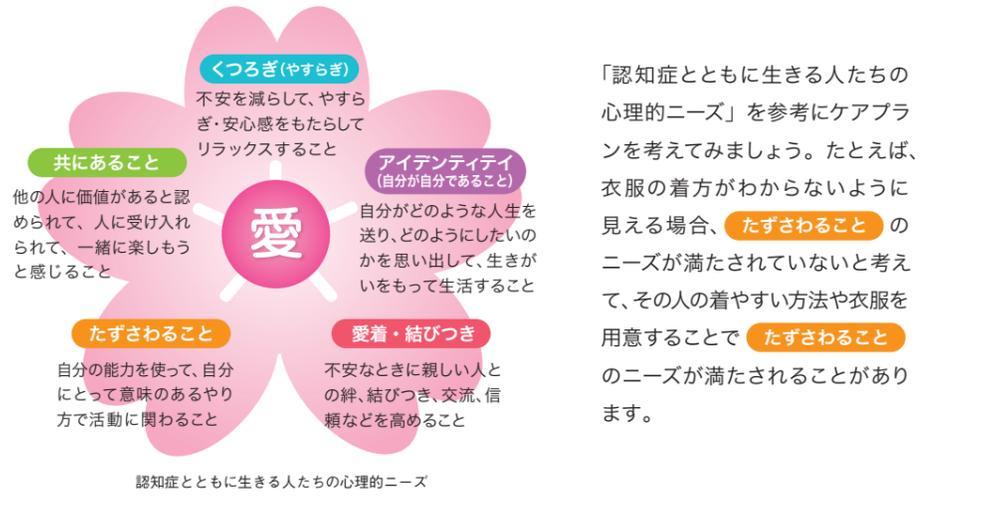
「認知症高齢者の生活支障尺度」と「パーソン・センタード・ケアの考え方」を活用して、ケアプランを作成していきます。(STEP1~4)

お名前 _____ 年 月 日

STEP 1 生活支障の程度を確認する

認知症高齢者の生活支障尺度 (25項目)	担当者	1 まったくくない	2 たまに(週1回程度)	3 ときどき(週2~3回)	4 ほとんど(週4回以上)	5 いつも(毎日)	混乱・興奮	該当する生活支障の特徴や原因など
評価日 年 月 日								
本人の最近の1週間の、下記の項目(生活支障・トラブル)についてお答えください。「1まったくくない」から「5いつも」の中からもっとも近いものに○をつけてください。●生活支障とは、人間関係や社会的生活がうまくいかないことやトラブルになることを言う。								
① 基本的な生活行動やコミュニケーションに関する生活支障 (10項目)								
1 衣服の着方がわからない		1	2	3	4	5	有・無	
2 (認知症の人が)何を言っているのかわからない		1	2	3	4	5	有・無	
3 整容/入浴など清潔に関する行動に無頓着である		1	2	3	4	5	有・無	
4 (周囲が)話している内容が理解できない		1	2	3	4	5	有・無	
5 よく知っているはずの人が誰かを忘れる		1	2	3	4	5	有・無	
6 着脱に関する動作を嫌がる		1	2	3	4	5	有・無	
7 洗身、湯につかる、体を乾かすなどの動作が十分に行えない		1	2	3	4	5	有・無	
8 食事に関する動作がうまくできず、よくこぼす		1	2	3	4	5	有・無	
9 食べ物と他の物との区別がつかず口に入れてしまう		1	2	3	4	5	有・無	
10 以前使用していた歯ブラシや杖などの生活上の道具の使い方を誤る		1	2	3	4	5	有・無	
② 焦燥や混乱に関連した生活支障 (7項目)								
1 繰り返し同じことを言う		1	2	3	4	5	有・無	
2 これまでと同じ様にできると思い、行動をする		1	2	3	4	5	有・無	
3 転倒の危険を認識できず危険な行動をする		1	2	3	4	5	有・無	
4 伝えたことや最近の出来事に対してわからないと言う		1	2	3	4	5	有・無	
5 物や事柄、行動に強いこだわりを持つ		1	2	3	4	5	有・無	
6 トイレに行きたいと繰り返し訴える		1	2	3	4	5	有・無	
7 何度も同じ行動を繰り返す		1	2	3	4	5	有・無	
③ 感情や判断力低下に関連した人間関係のトラブル (4項目)								
1 他人に乱暴な行動をする		1	2	3	4	5	有・無	
2 他人と自分の物の区別ができず、施設の備品や他人の物を持っていく		1	2	3	4	5	有・無	
3 不適切な発言によりトラブルを起こす		1	2	3	4	5	有・無	
4 感情のコントロールができない		1	2	3	4	5	有・無	
④ 意識の変化や繰り返される行動に関連した生活支障 (4項目)								
1 昼間にボーっとしたり、夜間もうろうとしている(せん妄)		1	2	3	4	5	有・無	
2 夜間眠れず、日中傾眠傾向である(昼夜リズム障害)		1	2	3	4	5	有・無	
3 家に帰りたいと繰り返し訴える		1	2	3	4	5	有・無	
4 物を盗られた、無くなったと訴える		1	2	3	4	5	有・無	
本人の特徴、家族の協力、生活支援に関して考慮すべきことがあれば記載してください。								

②と④の項目の、「5いつも」「4ほとんど(週4回以上)」に○がつくときは、**せん妄の可能性**があります。その場合は、『高齢者施設における認知症高齢者の生活支障尺度を利用したケアプラン作成&実践ガイド』P17を参考に、せん妄予防や原因に対するケアについてのケアプランを多職種で検討しましょう。



「認知症とともに生きる人たちの心理的ニーズ」を参考にケアプランを考えてみましょう。たとえば、衣服の着方がわからないように見える場合、**たずさわること**のニーズが満たされていないと考えて、その人の着やすい方法や衣服を用意することで**たずさわること**のニーズが満たされることがあります。

参考文献
 ●ブラッドフォード大学認知症ケア研究グループ: DCM(認知症ケアマッピング)マニュアル第8版、認知症介護研究・研修大府センター、2011 ●ドーン・ブルッカー、グレア・サー(ブラッドフォード大学認知症ケア研究グループ): DCM(認知症ケアマッピング)理念と実践第8版、認知症介護研究・研修大府センター、2011 ●鈴木みずえ、服部英幸他: 高齢者施設における認知症高齢者の生活支障尺度の信頼性・妥当性の検討、日本老年医学会雑誌、55(3)、386-394、2018 ●「認知症の看護・介護に役立つよくわかるパーソン・センタード・ケア」鈴木みずえ監修(池田書店)、2017

*この冊子は以下の別紙として制作されました。
 『高齢者施設における認知症高齢者の生活支障尺度を利用したケアプラン作成 & 実践ガイド』
 2016年度 - 2019年度 長寿医療研修開発費研究 『認知症「生活支障(トラブル)」の発症機序と対応に関する研究(28-10)』
 ●分担担当者 鈴木みずえ(浜松医科大学臨床看護講座教授) ●主任研究者 服部英幸(国立長寿医療研究センター精神科部長)

不許複製・禁無断転載